２０２５年度地域活動助成報告

# 若者世代に対する小児一次救命処置講習

杏林大学保健学部看護学科看護養護教育学専攻（小児看護学）
藤田千春、小林佳寛、場家美沙紀、山内亮子

## Ⅰ．背景と活動目的

地域で過ごす子どもの多くは健常児であるが、誤嚥、転落、交通事故、溺水といった不慮の事故により心肺停止につながる状況が少なからず生じている。子どもがこのような事態に陥った時に、救急隊に引き継ぐまで小児一次救命処置ができる救助者の育成が急務である。特に本学の杏林祭の参加高校生や若手の保育士は子どもの救急処置技術のスキルは無いものの、習得への意欲は高いため、講習会を実施し、もしもの子どもの緊急対応を前向きに実施できる地域づくりに努めたいと考えた。

そこで私達は、小児の一次救命処置を学びたい若者世代に教授することにより、「一次救命処置の手順が分かる」こと、すでに練習の経験がある方に再受講してもらうことにより、「子どもの緊急時の救助行動につながる自信を養う」といった子どもの救命活動に寄与することを活動目的として取り組んだ。

＊講習会は子どもの一次救命処置をより多くの人々に知ってもらうために、乳幼児と実際の関わりが無い方でも希望があれば講習に参加して頂いた。

## Ⅱ．活動の準備

### ☆学生ボランティアの募集

教員と共に参加者への指導補助を担当する学生を募集し、7名の応募が得られた。

### ☆講習プログラムの準備

実施施設でニーズのある講習内容を抽出し、分かりやすい講習となる様、対応の表現方法を検討した。その際、一般市民用のプログラムを平易な表現にするべく工夫した。また教員は救急救命士の免許を持つもの2名を含み、全員がAHABLS講習2020を複数回受講している。さらに講習前は自主練して自己研鑽に努めている。昨年度の指導や、受講者の取り組みを観察し、受講者が欲している実施の要点や動作パターンを捉え指導した。

### ☆学生ボランティアとの練習会

学生と共に勉強会と技術面の練習会を行った。

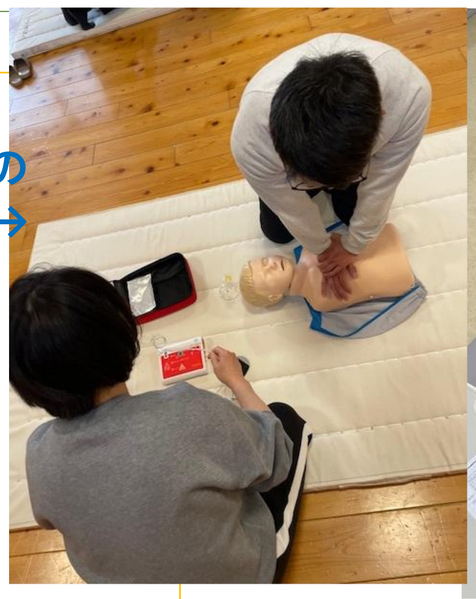
実施日：2025年10月1、14日2026年1月29日午後（全員出席）

### ☆実施先の準備

先方と学習ニーズや会場の調整を行い、準備につなげた。

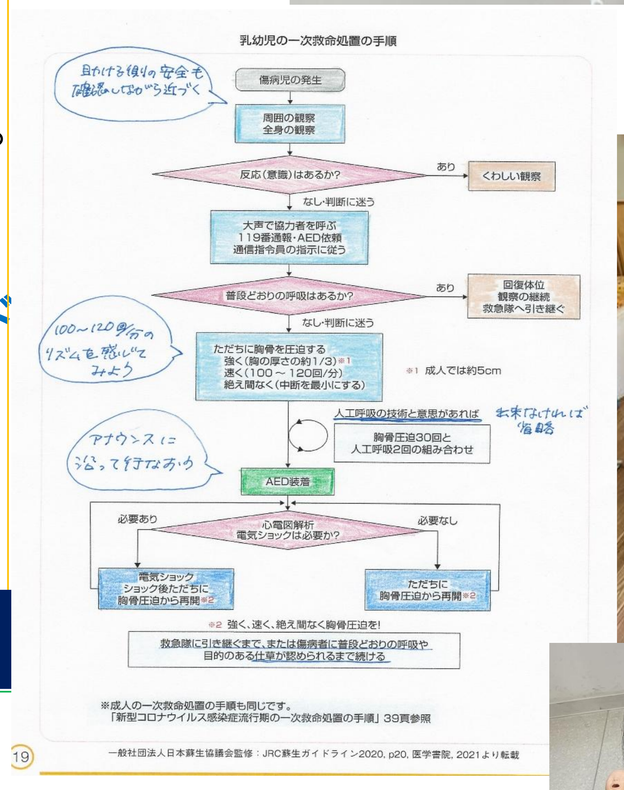
## 実施風景

保育園での講習風景→

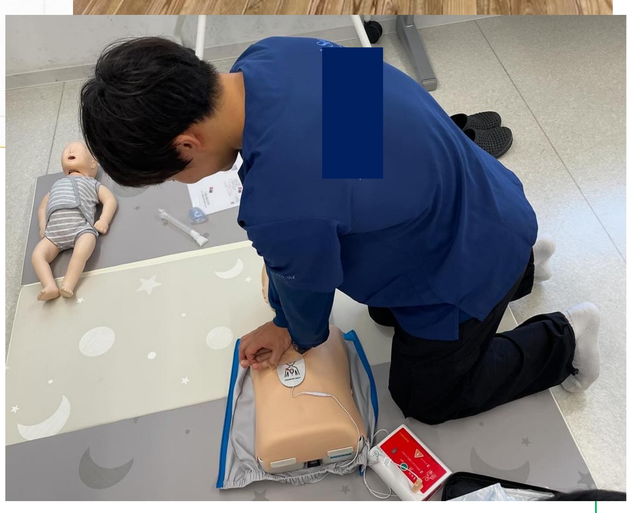


←子どもの一次救命処置の事前練習風景

JRC蘇生ガイドラインより⇒




↓当日　教員と学生ボランティアが教えているところ



他学科の学生さんも　↑
練習に来てくれました

## Ⅲ．活動内容と結果

### ☆実施日、施設、受講人数

2025年10月25日、26日杏林祭E棟　受講者39名

2026年1月14日、21日　羽村市しらうめ保育園　受講者23名+1名（保育所職員と市職員）

2026年2月14日　小田原市保育所オダワラソダチ　受講者17名（保育所職員）

### ☆実施した講習プログラム　★学生ボランティアは10月と2月に各3名ずつ担当

非医療者用の小児一次救命処置（幼児および乳児とAEDの実施の実技

自分の出来具合を振り返るチェックリストを基に練習して頂いた

＊ご希望の方には窒息の解除や気道確保などを追加説明した。

### ☆受講者の声　＊実施前は怖い、難しそう、大変そうと思う方が半数以上

・特に乳児の胸骨圧迫について学べて良かった。勉強になった。・AEDの操作を経験できた。
・シミュレータや練習用AEDを使って練習できたのが分かりやすくて良かった。
・丁寧でとても分かりやすかった。・年一回はできると良いと思う。・繰り返し練習したい。
・窒息の解除も練習したい等の意見が得られた。

**受講者へのアドバイス多かったもの**

・圧迫テンポの速さ、深さ
・胸骨圧迫の位置、救助者の腕の角度　など

## Ⅳ．まとめ

若者世代は学校や教習所で成人の一次救命処置を学習した経験があるが、子どもの一次救命処置の練習経験は無く、本講習に興味をもって臨まれていた。万が一の時に、処置を実践できるよう教育の機会を提供し、シミュレーターを用いた練習によって受講者のスキルアップと救命の意識向上に貢献していきたい。　※写真は掲載許可を予め取っています。